

# 中津川市地域医療実習 感想文

愛知医科大学 二年生 H

五日間にも及ぶ中津川市での実習では、医療とそれを取り巻く保健、福祉、介護の現場を見させていただき、たくさんの学びを得ることができた。診療所や子どもの発達支援センター、デイサービスや一般介護予防事業の施設などを見学したり、看護師の訪問看護や保健師の訪問指導に同行したりと、とても充実したプログラムだった。

私は、このプログラムを通して、中津川市での“健康”づくりに取り組む体制を知り、そのサポートの手厚さに驚いた。各施設での取り組みから、乳幼児や高齢者に関する医療や行政などと連携した取り組みまで、様々なものがなされていたが、特に保健師による訪問指導が印象に残った。訪問指導には、乳幼児全戸訪問指導と特定健診に関する保健指導があって、その両方を見学させていただいたのだが、保健師の方はどちらも一時間もの時間をかけて丁寧に説明をされており、とても親身だと感じた。乳幼児については、健診や相談、各種教室などを医師・保健師・栄養士・保育士が行うということで、多職種と行政が連携していることが分かった。多職種連携というと、実習中は各施設で様々な職種の方と関わる機会があり、改めてその重要性を感じた。

また、今回の実習では、スタッフの方々と以上に地域の方々と交流する機会がたくさんあった。子どもの発達支援センターでは幼児とその保護者の方々、他の施設では高齢者の方々と交流することができた。中津川市の皆さんは、身の回りのことを自分でやるという方が多く、年齢のわりにお元気であるのが印象的だった。また、中津川市の医療についてなど、いろいろな話を伺うこともできた。お話の中で、医師に求める姿として共通してきかれたのは、話を聞いてくれる、ざっくばらんに話せるというもので、気軽に何でも話せる医師が求められていると感じ、そのような医師になりたいという気持ちがより強くなった。

中津川地域医療実習では、地域医療の実態を知り、地域住民の方々とたくさん交流することができた。この実習を通して新たに見つけた課題に今後も取り組んでいきたいと思う。